京城新報

明治四十二年　紀元二千五百六十九年

本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢

大祭日及び日曜日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人　高木久馬太

印刷人　松久神一郎

發行所　京城西署西小門通（電話六六三）　京城新報社

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

千山萬水

▲賣藥の亞流歟

讃美の煽るもの必ずしも美からず惜惡の擯ずるもの必ずしも惡からず粗笨の具にして而して邀へられ善美の粹にして却て擯けらるゝもの往々にして之れ有り、何を以て然るか、一は夫れ時流に順ふを以てなり一は夫れ人氣に投ぜざるを以てなり、頃者世の進運につれてか世は方に新聞雜誌の世となり畢ぬるやの觀ある迄に新聞雜誌流行の時代とはなりぬ、殊に雜誌に至ては年に月に簇々として目新らしきものゝ發刊せらるゝを見る、東都のみにて其種數の四百を以て數ふと云ふに至ては豈に旺なりと云ふべからずや、然れども其の數の多くして其の裝の美なるに眩惑せられ直に以て其の誌の價値あるものとなし世人の智を磨くに急にして德を養ふるに意ありとなすこと勿れ、其の收むる所は什麽其の載する所は甚麽に、一瞥一瞥、纏縮せざるものありやなしや實業の雜誌工業の雜誌農業の雜誌商業の雜誌乃至は敎育政治經濟の雜誌悶みし來らば其誌の本旨何れに在るやを怪しまずんばあらず、其の載する所卑猥の文学にあらずんば金儲けの甘言ならざるは鮮し、一方に此現實時代に血走れる青年の射倖心に投じ好奇心を迎へて奇矯の言を吐き異例の倖功を叙する實業雜誌あるかと見れば、一方には青年熱情戀愛に渇せる青年の意を悅ばしむる自然主義の尾籠なる小說稗史になれる文藝雜誌あり、甚だしきは堂々たる政治評論の雜誌にして僅に小說を以て讀者を繫ぎ留め居るものありと聞く實に情なからずや、胃病の兒に飴糖を食はして歡心を求め放蕩の子に美女を贈て暴利を貪るにも似たり、人若し其の挿む畵圖寫眞と廣告の如何なるものなるかを見ば大概は其の內容の如何と讀者の種類を知るを得べけんかし、然り雜誌は斯の如くにして世に持て囃され售れ高數萬と註せらる、人氣に投じ時流に隨ふを以てなり、人の弱點を抑へて商賣すればなり、雜誌元と是れ一の商賣品なる以上は多く售りて多く儲くるの手段を回らさゞるべからずとは云へ、世の御表木鐸を以て自ら任せざるべからざるものゝ左りとは餘りと云へば餘りならずや、讃美の煽るもの必ずしも美からず、雜誌も亦た終に賣藥の流れを掬むか、世を擧げて皆な濁らば吾も亦た其の波を揚げざるべからざるか、衆人皆な醉はば吾も亦た其の醨を啜らざるべからざるか噫、

▲新紙も世に阿る

此のたび伊藤公の哈爾賓に兇手に殪てより祖國數百の新聞を始め在外邦字の新聞に至る迄無茶苦茶に事柄の撰擇なしに公に關する記事を以て殆ど毎日其の紙面の過半を埋む、而して其の半は實に傾斜の巷に關するものたるにあらずや、吁伊公の以前伊公なく伊公の以後又た伊公なけんとまで謳はれたる明治一出の伊藤公の死は天下の等しく惜しむ所にして今事新らしく公の性格勳功偉業若くは逸事等を繰り返して語らひ合ふも、せめてもの心遣りにて、欽慕する公に對する人情の然らしむる所なりとは云へ、其の記事の餘りに無遠慮過ぎるには驚かざるを得ず、此る場合には何も彼も想出の種とはなるものゝ何藝者の實話何女將の懷舊談何猥染の直話何寵妓の物語曰く何女の話曰く某女の談等賤の双等が宴席に侍しての見聞皮相談を寫し來りて左も手柄氣に長々しく毎日記事の半を盈たすとは呆然たらざらんとするも得ず、天下一品の公も此る尾籠の而も一面皮相の而も偶々以て公の不謹愼とせる此小瑕瑾を描き來るにあらざれば終に紙表に躍然たらしむるを得ざるか、公の事蹟に就ては今や世人の知るが上にも知らんと欲する所、人傑を理想し欽仰欽慕の情の篤き青年兒童にありては殊に然りとす、此の際に於て不愼謹にも無茶苦茶に藥柳折花の粹事をのみ聚め連日連載するに於ては之を讀む善惡なき兒童青年は此が爲に甚だしく誤まられ甚だしく誤解し公のエラさの半面は實に斜惡の粹士たりしにあるかと疑ひ、色を好むは是れ才子の本領細瑾を顧みるは英雄の爲しとせざるものゝ如くに誤解し心理的作用は知らず識らずの間に終に若者をして一生を誤まらしむるの業をなさんも未だ知るべからず、人の傚ひ學ぶ概ね先づ其の口吻身振り等只其の典型にのみよるものなるを知らば新紙の此の擧の餘りに不謹愼なるを咎めずには過されじ、世の師導を以て自ら任ずるものゝ能く忍ぶ所にあらざりけらし、新紙も亦た終に時流に附附し人氣に投ぜんをのみ是れ努め附和雷同主義なく方針なく只其の紙數の售るゝと多からんを冀ひ購讀者の何種の人たるを論せず唯其の多きを以て誇りとするに至り了せるか、噫きても又た嘆かはし

俳句

●第七次五吟集　すみれ會

結字（母能意江菜久知美　流左六芝安氣之風）

◎きぬた　むら撰

松風の絶間や遠き小夜きぬた　淡水
嫁賞むる姑美くし小夜きぬた　月哉
子寶に母の忙しききぬたかな　霞城
母家にも負けで新家の砧かな　萩水
寢てる子に氣兼しながら砧哉　秋花
調子能く揃ふ擣衣の遠音かな　出來內
弦は切れ二の矢流れて聞く砧　笹波
寢た母に心して打つ擣衣かな　淡水
氣受よき嫁やきぬたを遲く迄　玉糸女
手替りに母の起きたる砧かな　萩水
江を抱く塞村更けて遠きぬた　四樂
母家より咳き洩て小夜きぬた　秋花
暫くは風にきぬたの亂てう子　出來內
きぬた打つ母が敎訓きく子哉　一止
郵便やきぬた二つが不意に休　月哉
能い町へ出て遠くなる砧かな　笹波
機卒へし賢母の夜をきぬた哉　月哉
病む母に心置かるゝ擣衣かな　胞三
灯のともる藁家六軒きぬた哉　四樂
賤が家に稀な美人のきぬた哉　六坊
鉦叩く母の後ろにきぬたかな　月哉
病む母の目覺勝なるきぬた哉　胞三
細き灯の下に母子の擣衣かな　六坊
久々に歸省の夢やきぬたの音　同
旅に居て母を夢見るきぬた哉　四樂
五六軒拍子そろうや擣衣の音　同
母逝いて淋しくなりし砧かな　同

◎感章　四坊

長安の天戀ふ妻や小夜きぬた

◎新刊紹介

●新公論（十一月號）澤柳氏の警むべき國民の已惚心、三叉の南へ南へ狩野氏の辯持ちと神經症あり殊に讀むべきは日本に對する誇大恐怖病の製造地中の犯罪者精神病者の生殖作用は看過すべからず書籍店競市の內幕は無くてもがな△東京本郷東片町其社△一部十七錢

●實業之世界（六の十二）人氣取りの雜誌當嶺の軍人雄及び商人雄の神髓天一の相場師たらんとする青年を誡む者など讀むべく三浦將軍縱横談名士と記の快氣焔例に依て面白し△東京芝三島町其社△一部十一錢

●東京經濟雜誌（一五一四）金融の景況關稅同盟論（二）梅博士の韓國の法律制度に就て（下）大西の帝國主義論スチーヴンソンの鐵道と銀行等重要記事多し△東京京橋彌左衛門町其社△一部十二錢

●滿韓之實業（四八）韓國鹽業策、韓國牛皮に向て、鴨江上流森林伐採經營滿韓の事業界、滿洲に於ける韓國米等實業家必讀の文字多し△釜山琴平町滿韓實業協會

●貿易（十の十）田尻博士の關稅改正論其他論壇に調査に通信に經濟內外商工業者有益の記事あり△東京京橋宗十郎町日本貿易協會

●綠熱（一の七）例に依て面白し△東京麹町下二番町其社△一部五錢

●御重寶　皇室皇族一覽明年の路勝軍隊配備、郵便爲替貯金振出規則諸印紙稅類運賃物案內等を載す△東京日本橋住吉町法木書店△五錢

鎮西八郎

第二十一席　伯山改　神田松鯉口演

爲朝は紀平治と舊虹山にて別れ〳〵となり其後は如何にしつらん、彼れを案じてゝ往くも義に違ふ、左りとて此の船に後れては百日の日限に間に合ふまじ若し百日を過ぎなば上皇へ對しても父へ對しても相濟ます、紀平治は此國に馴れたる者なり、假令藥置くとも歸り來るならんと直ちに其の船に乘れば、船夫は忽ち帆を張り舵を取つて東北望んで漕出しました、所が彼の八町礫の紀平治は舊虹山にて主君を見失ひ、驚いて山中隈なく探したれど姿さへ見へず、遂に山中に夜を徹し、曉に至りて又々山を尋ね遇はず、茫然として旅館へ立歸へれば、今船は纜を解かんとして船の中に御曹司も居られますゆゑ嗚呼と許りに走り寄りますれば船は既に磯を離れて十反許り乘出した、紀平治は磯邊に立つて大聲上げ紀「オーイ〳〵、其船戾せ」と呼はつたり、爲朝も又船夫に向ひ爲「彼の男は我が連れの者なり、疾く船其を戾してよ」と宣まひまするが、船の頭は爲朝を源家の御曹司、鎮西八郎とは知らず唯の商人と思ひまするから、少しも尊敬の念を拂はず知らぬ顔して風のまに〳〵走り曳々聲して漕去つて大分に沖の方へと出でました、爲朝は心を焦てども如何とも詮方なく唯心配氣に陸の方を望んで居る、紀平治今は是迄なりと突如衣類を脱きて頭へ括付け、赤裸々となりて淘然と許りに漫々たる大洋へ身を跳らせて飛入つた、紀平治は固より水練の達人、西海の濱に人となりたれば水を游ぐこと龜に異ならず、浮きつ沈みつ拔手を切つて瞬くうちに船の間近まで進んだけれど、浪高くしてなかなか近寄ること能はず紀平治は、斯かる時の用意にもと身を放さず持ち來りし鐵丸に數十丈の緒を付けたるを、泳ぎながらサ鼻筒の間より拔出して、手にて浪を切り右手を高く差揚げて紀「ヤッ」と云ふ掛聲諸共に彼の鐵丸を船を目掛けて投げ付ければ、固より手練の紀平治太夫、緒の端は手首に留まり鐵丸船の中へハタと計りに飛入るを、爲朝は丁と受止め、徐かに手繰寄せ、紀平治は難なく船に跳乘りたり、爲朝始めて安堵の思ひをなし爲「ヤア美事〳〵、今日始めて八町礫の臉前を見しぞや」と賞めました、船中の人々は紀平治の水練に長けたのを見て是れも大に驚嘆し「北國の人は能く馬に乘り西海の人は能く水に達したりと云ふが、斯くまでに水練に妙なる人はまだ聞きしことなし」とまで申しました、是より爲朝は彼の山にての事を委く物語り、紀平治も大に悅びまして、紀「先づ御身体に何の御障りもなきは結構にて、又鶴を得給ひし是亦賀すべきの至りでござります」と、種々の事など物語りまして幾日かを過ぎ、船は無事に薩摩國へと着し、茲より人夫を雇ひて鶴を背負はせ太宰府指して立ち歸る、さて太宰府に留守せし忠國と白縫の兩人、爲朝の打立ちてより後絶て何等の音沙汰もありませぬから、大に心配し、多くの家臣と諸共に或は海神に紙幟し或は神社に幣帛を奉り只顧速かに歸り給はむことを祈り居られます、又都にては爲朝朝臣に於かせられては、早馬を以て歸國の有無を問はせらるゝ段々さし迫り、百日間近かに相成つたので一同の心配と云ふものは容易でない、斯かる所へ早打の使一騎薩摩國より來り「某は御曹司よりの御使にて候が、御船恙なく薩摩潟へ着し無事にて御歸國の途に參り候」と云ふ口上、之れを聞いて一同も皆渇める草木の甘雨に遇ひたるが如く、忠國は五十八人を率して馬を牽き轎を扛せて途中まで出迎ね、白縫は衣服を改めて待ては、やがて爲朝は太宰府の館へと歸り白縫は門前まで出迎ひを致し無事を祝し夕刻よりは祝ひの酒宴を開らかれ、紀平治の妻八代は花やかに扮裝つて銚子土器を持ちて出で席上の周旋を致します、何しろ御曹司の無事御歸館と云ふのではなか〳〵大酒宴、一同萬歲を唱へました

京城新報

隨行員の不心得

●非武士道的の動作●

哈爾賓に於て伊藤公が暗殺せられたることに就て、隨行員の動作は何人も浩歎の聲を發せざるものなからむ、渠等の行動は實に日本男兒として恥づる所なきか、余輩は渠隨行員等の非武士道的の行動に唾棄せざらんとするも夫れ得可けんや。

伊藤公は常に近親に向て何れに至るも死の覺悟あるを語りしとかや、されば公に隨行するものは何れも亦此覺悟なかる可らず、然るに何ぞや渠隨行員にして一人として、公と死を共にする覺悟あるものなかりしに非ずや、若し夫れ渠等にして常に此覺悟ありしとすれば、先づ第一に發砲したる兇漢を取押へざる可らず、然るに渠等は狼狽して兇漢を取押へざるのみならず、進で公の身を擁護したるものもなし、兇漢は却て露人によりて取押へられたりと云ふに至りては、日本男兒として平生其勇を誇るもの露人に對しても赧然たらざるを得ず、武士道を以て誇りとせる日本男兒の顏汚しにあらざるか、余輩は返す〻〻も渠隨行員等の爲に惜まざるを得ざる也。

渠等は平生無事の日に於ては、公の威を藉りて得々として人に對するも、一朝斯る事變に際すれば斯の如く狼狽して、其の爲す所を知らざると云ふに至りては、如何に之を辨解するも非武士道の譏りは到底免る可らざる也、若し夫れ古の武士ならば其場に割腹して殉死すべし、若し夫れ古の武士ならば其主公の身に掩ふて矢玉の衝に當る可し、而して今回公に隨行したるものは概して平生公の恩寵を蒙れるもの多く決して普通一片の隨行員には非ず、此點よりするも第一の發砲に於て渠等は公の身を擁はざる可らず、然るを二發三發迄も此擧に出でざりしは全く腑甲斐なきことゝ云はざる可らず、斯る輩は公が得意のときに於ては、所謂虎の威を藉りて驕態を演ずるが常也、遭難當時に於ける伊藤公も必ずや渠等の腑甲斐なきを歎せしならむ。

露國某新聞に掲げられたる遭難當時の插畫に、渠隨行員が愴惶狼狽逃走せる所あり、果して渠等が斯く見苦しく狼狽逃走せしや否は知らざるも、兎に角一人の公の身を擁護して矢表に立ちしものなく、亦其兇漢を捕へしものなしと云ふに至りては、眞に非武士道的の動作也、斯る輩が幾人隨行したりとて何等の効なし、余輩は渠等を警しむと共に、爾後の爲に此言を爲す者也。

東京電報

▲大演習の御統率

大元帥陛下には本日宇都宮停車場御發輦黑磯驛下車其より高久村野立所にて奥參謀總長より各軍の行動を詳細聞召され戰況御覽ありたり此日寒氣嚴烈士氣大に振ふ(六日)

▲取引所理事長選任

昨夜東京米穀取引所は臨時總會を開き株式會社重役の改選を行ひたるが松澤與七氏理事長に當選せり(同上)

▲安奉線守備隊問題

日清協約にて未解決なりし安奉沿線守備隊問題は近日奉天に於て協商開始せらるべし(同上)

▲内相以下免官運動

朴内部大臣、岡内部次官、松井警務局長を懲戒免官に附すべしとの議起り東京新聞記者團は運動を開始すべし(六日午後日本電通)

▲三井家の見舞金

三井家にては伊藤公に對し金二萬圓を送ることに決せり(同上)

▲伊藤博邦の歸朝

公爵嗣子伊藤博邦氏來る二十一日敦賀到着の豫定なり(同上)

歐州電報

▲露帝の引見拒絶

露國皇帝陛下はオデッサに於て波斯廢帝との個人的引見を拒絶せり(五日東京經由)

▲リーブ種族平和

西班牙國はリーブ種族と平和條約を締結する條件として摩洛哥に於ける同國の領土擴張を要求せり(同上)

▲連合計畫の延期

露國の計畫たる芬蘭ワイボルグ政府との連合は延期せらる(同上)

▲露國明年度の豫算

は大藏省に於て種々の項目より一億九千萬馬克を削除したるが爲め歳出入相平均するに至れり(同上)

雜報

國葬當日の光景

●前代未曾有の盛儀●

故大勳位伊藤公の國葬は豫定の如く去る四日を以て日比谷公園祭場に於て執行せられたり公は維新元勳の首班國家柱石の重臣にして勤王開國の皇謨に賛し立憲を全ふし内にありては大鼎政機を執り外に於ては隣邦扶植を樹て眞に一代の大政治家にして勳績共に世界の欽仰するところなりしが不幸滿洲視察の途兇漢の爲めに殪る凶報一度至るや畏くも 陛下には軫念し給ひ國葬を命に誄詞を賜ひ恩韶極る列強皇帝又或は特使を派して弔意弔詞を送るに至りては公の死や光榮ありと云つべし國葬の主旨は森嚴なる盛儀にして 陛下畏くも廢朝仰出され廟堂百官徒歩して隨從し

儀仗兵二萬の多きを以て

前代未曾有の祭典たるを知る其詳細は到底筆紙の盡すところに非ず今其の大要を報せんに國葬當日は朝來寒雲低く垂れ滿市暗澹として天公も又此公の死を悼むもの〻如し

▲祭式前の官邸 靈南坂の官邸にては拂曉より祭官葬儀係は其他の諸員諸般の準備に從事し時間の漸く移るに從ひ元老元帥親任官以下高位高官の歷々相次で參邸し馬車人力車の往來塔歩絡繹靈南坂官邸前部より官邸内の混雜非常を極め宛然鼎の沸くが如き光景を呈す

▲柩前祭と遷祭 午前七時を報ずるや祭場の裝飾幾りなく整頓し終るや佐々木副祭主先づ清秡を爲し靈代を柩前に安置し喪主家族親族の方々千家祭主以下祭官葬儀係眉床を終るに至れば祭官神饌敷台を祭主副祭主之を柩前靈代の御前に供し此間奏樂古樂を奏して千家祭主恭しく進み祭詞を靈代に白す此間祭前の諸員起立して最敬禮をなす天皇陛下御名代勅使北條侍從先づ玉串を捧げ次で皇后陛下御名代渡邊主事皇太子殿下御代拜田内侍從同妃殿下御代拜馬場主事の順序にて玉串を捧げ相次で英米獨佛伊墺六箇國の君主代表者(大使)韓國皇帝勅使閔炳奭太皇帝御使朴齊斌韓太子御使趙武官伏見宮閑院宮東伏見宮梨本宮久邇宮竹田宮東久邇宮朝香宮有栖川宮(御代拜平山別當)宮美宮泰宮兩内親王殿下御代拜の順序にて禮拜玉串を捧げ次に喪主代理伊藤文吉男を始め家族親戚の方々千家祭主以下祭官滿洲隨行員葬儀係諸員の順序を以て拜禮を爲し玉串を捧ぐ右了つて奏樂再び神饌を撤し佐々木祭主進んで御靈代を靈舍に移し千家祭主之が先導をなし次で佐々木副祭主靈舍の簾を下し之にて式を終り各員退出せられたり

▲靈柩並に行列 午前九時伶人樂を奏し始むるや之を合圖に靈柩は官邸を發したり其行列の盛大なる實に維新雄一の大元勳たる公の

最後の歷史

を飾りて光輝赫灼たらしめ百万の都民をして國葬祭の威嚴壯大なるを拜せしめたり行列の先驅として騎馬の警視警部並に陸海軍々樂隊儀仗隊の内川村大將の指揮にて近衞騎兵一中隊近衞步兵一聯隊を卒ひ次に韓國皇帝同太皇帝韓太子の眞榊白旗八旒神饌唐櫃兩側の狩衣祭官次に雨皮蓑床狩衣祭官佐々木副祭主千家祭主何れも衣冠徒步し次に五人の雜色にて捧げ持ちたる公の靈旗一旒次に家從伶人の一隊次に各皇族次に遞獨露英各皇帝陛下より御贈進の花環韓國皇帝同太皇帝皇太子妃殿下皇太子殿下皇后陛下天皇陛下の眞榊餅二對楯二對次で公一代の勳章大勳位菊花章同頸飾章並に同盟國大不列顛國陛下より賜はりたるバッツ大勳章を始へ公が生前の勳功を表彰せる光輝赫灼たる勳章徽章二十四個石橋海軍大佐井上工兵大佐久阪步兵大佐名倉騎兵大佐以下之を捧持し次に靈柩は雜色五八にて擔き上げられ柩側右側には寺内乃木大島の各大將山中村田兒玉の陸軍中將左側には齋藤海相東郷山本の兩海軍大將上村瓜生島村の海軍中將隨從し次で喪主博邦氏代理伊藤文吉男博邦氏の令息二人故公爵令息眞一末松子西源四郎氏井上侯井上勝之助子博邦氏の兄兒玉義太郎氏森祐三郎伊藤家の本家戸主林文太郎氏何れも大禮服徒步にて諸員之に從ひ次に雨皮蓑床家從伊藤文吉氏は喪服に悄然として伏目勝に歩を進め家中家族親族親戚又次に滿州の隨行員葬式係に次ぎ大勳位親任官同待遇公爵從一位勳一等勅任官侯爵正二位勅任待遇伯子男從四位勳三等奏任官從五位勳五等貴族院議員衆議院議員東京市長大禮服燕尾服にて徒步次に特別の由緒ある諸氏之に次ぎ儀仗兵の内海軍兵一大隊步兵一箇聯隊騎兵一聯隊近衞野砲兵一中隊騎馬の警視警部護衞したり而して儀仗兵の大部分は葵橋内より内幸町邊まで二重に整列せしめたる行列の盛大なる未曾有にして路遣

二十五丁

恰んど

寸分の餘地

なく行列の先頭日比谷祭場に到着せるは午前七時にして全部行列の入場せるは同十一時なりき

▲東京市の雜觀 朝來この偉人の古今未曾有の大葬典を拜せんとて靈南阪官邸より日比谷祭場に集るもの數幾十萬なるを知らず電車は午前五時より既に滿員にて其の雜沓曰はん方なく警視廳にては之が取締の爲め靈南阪官邸迄往來を止め一方山下橋及び式場附近には警衞の爲め巡査を派し葬儀關係者の外其の出入を禁じ殊に午前八時より附近電車の運轉を中止せしめたり又この葬典を拜せんとて近郷近在より蝟集せる老若男女はこの雜沓に度を失ひ居たり市中各戸及電車は孰れも弔旗を揭げ銀行商店諸興行場は休業して哀悼の意を表したり

△公爵梅子夫人を始め家族親族夫人は式場に先着せられたり

▲大葬儀の模樣 斯くて靈柩の官邸を發するや當日特に橫須賀より品川に回航の軍艦鎮遠並びに陸軍よりは分時弔砲十九發を放ち行列先驅の日比谷祭場に達するや軍樂隊は交々哀の譜に奏し靈柩の到着するや奏樂の裡に神饌を供へ千家祭主恭しく祭詞を白し佐々木副祭主誄詞を讀み了りて 天皇陛下勅使北條侍從皇后陛下御名代渡邊主事英國皇帝御名代マクドナルド大使佛米獨露伊墺の各元首御名代以下順次禮拜を終りたるが朝來晴雲を催ふし居たる空は各國大使禮拜の頃より小雨となり漸次雨脚繁からんとするより以後は非常の混雜なりしも葬儀係の盡力にて一同禮拜を終り金光燦爛たる大官が番傘を翳して退場するなど當日の一異觀なりき

祭典の莊嚴は云ふ迄もなく一代の元勳を哀悼し給へる大御心を仰ぎ見奉るもの何れも

聖恩の鴻大

なるに感泣の淚に息をひそめて場内は水を撒きたらんが如く數萬の會葬者は人神感格の境に入りて肅然たり殊に愁雨細やかに弔旗風に飜る音のみ悲しく中々に哀悼の極みなりき

▲英靈長に眠る 靈柩は午後一時式場を出發し大井村谷垂の墓地に向ひたり埋葬場の入口には門を設け天幕を張り中央數百間の廣場に八棟の帷舍を立て幔幕を張り廻らし孔穴は九尺四方の大きさにして其中央には石棺あり棺は高さ九尺幅五尺四寸にして更に厚さ三寸の中箱を入れ靈柩を其中に收めたるもの石棺周圍には木炭百五十貫石灰五石を入れたり弔砲悲しき間に靈柩は定めの高所に安置し增上寺の管長堀大僧正十一名の番僧を從へて讀經をなし順次禮拜滑車にて柩を孔穴に收め喪主文吉氏鍬を執りて土を蔽ひ博邦氏夫人令妹末松氏夫人西源四郎氏同夫人井上侯夫人其他親戚の人々土を掛け全く埋葬を了りたるは午後五時なりき、

千古の偉人

は斯の如くにして長へに地下に眠れり

ルーター電報

▲ルーズベルト氏の橫死

米國前大統領ルーズベルト氏は亞弗利加に於て狩獵中象の爲め襲擊され遂に噛み殺されたり

(六日東京經由至急報)

公報發送の停止

統監府公報發送に要せし約束郵便料滯納の爲通信管理局にては法規に因り自今同公報の發送を停止するならんとの事なるが管理局が公報發送の停止を斷行し得るや否やは頗る疑問なり

曾禰統監の東上

曾禰統監は内閣の命に因り近日東上すべしとの說あり

新任警察官の送別會

警察官第十一回茶話會は本六日午後一時より中樞院構内に於て開催忠北書記官に任命されし永田警視、國友警視、鎌井警視安田警視、新任富田警部等諸氏の送別會を行ひしが恰かも赴任の途次上京せられたる江原道警察署長渡邊警視羅南警察署長天野警視の二名を招待し警察官多數參會頗る盛會なりしと

仁川穀物協會賣上高

仁川穀物協會に於ける十月中の穀類賣買高は左の如し

籾	一、七六〇、四四〇	大豆	一、〇九〇、七二〇
玄米	三五四、二八〇	小豆	三、〇〇〇
白米	一〇八、四九〇	莊子	三〇、四九〇
小麥	五九〇、二四三	計	三、九七三、五〇〇
胡麻	二六、八二〇		

内部と水利組合管理

水利組合は度支部に於て經營し居たるが今回交涉の結果内部に於て之が經營に任ずることゝなり目下其條令を制定中なるを以て脫稿の上は法令審查會に附し可決の後内部の管理に移さるべし

漢城府の吏員增備說

漢城府にては登記事務近來に至り頓に多忙を極むるより來年度より人員を增し事務の敏活を圖る由なるが其の人員增備は目下の倍數程に上るべしと云ふ

和蘭公使の滯在期

本邦駐剳和蘭公使ロイエン氏は昨夕入京せられたるが兩三日滯在の上仁川、大連を經て滿州漫遊の途に上らるゝ由

獨逸記者の統監訪問

來京中の獨逸ブランクフールテル、ツァイトング記者のドクトル、ウエルトハイメル氏は明後日統監を訪問する筈

平壤小學生徒の來京

平壤民團立小學校生徒八十一名は昨夜教員三名に引率されて仁川に來り一泊して市中を巡覽後本日午後入京せり

靖國神社大祭と軍隊

今六日は靖國神社の大祭日なるを以て駐韓軍隊も一般に休暇を賜はりたりと

熊谷民長の辭職

京城居留民長熊谷頼太郎氏は本月二日突如辭表を提出し昨五日午後七時より民會を開き全會一致を以て承認したり

民長の慰勞金五千圓

別項熊谷京城居留民長退職承認に就ては同氏三年間在職の功勞に酬ゆる爲め同夜の民會に於て慰勞金五千圓を贈るの件是亦全會一致を以て可決したり

京城居留民團長代理

熊谷民長辭職に就き其後任決定する迄林田助役は民長の職務を執る筈なりと

龍山通信 (六日支局報)

▲連絡時間の復舊 前月虎疫流行當時より關釜連絡船は六連島に於て檢疫を受くる爲め釜山發畫航船は時間の都合上三十分間繰上げ居りしも本日より從前の通り午前十時五十分發航することゝなれり

▲十月中連絡貨物 前月中鐵道院及び鐵道廳との連絡輸出入貨物數量如左

輸出	大貨物斤扱	六一、四四四
	同 噸扱	一、五九二
	速達便扱	六
輸入	大貨物斤扱	二、三一七、七三九
	同 噸扱	一、一六六
	速達便扱	三六二

右に對する日本郵船會社所有船積荷は輸出三、八三六斤、八二噸、輸入三六二斤にして大阪商船會社船積荷は輸出六〇七斤なりとす尙之れを昨年十月に於ける出入貨物に比するに輸出一萬斤輸入四十萬斤の增加を見たり

▲同盟罷業の後報 釜山鐵道院船舶課に屬する人夫同盟罷業事件は本日解決し夫々從業し居れり

▲滿韓連帶の成績 滿韓滊車荷客連帶輸送は客月二十一日開始されたるは既報の如くなるが同日より三十一日に至る十一日間に於ける荷客の數を聞くに韓國發旅客二十八人着一人荷物は發四十九個着皆無にて成績甚だ不良なるが這は連帶輸送開始の未だ一般に周知されざると安奉線の不便なるが爲めならんと

▲龍山逐鹿界彙報 龍山民團に就て聞き得たる處に依れば選擧人名簿作成後有權者の移動頗る多く實際の選擧投票數は總計六百票內外ならんかといふ龍山革新同志會にては昨日愈候補者確定し夫々推薦狀を發送すると同時に會員は東西に分れて選擧人の勸誘を開始したる筈なるが其推薦狀は一は坂敬明氏外七名を他は稻垣甚氏外七名を連記しあり記者は同會が公平に撰良を得んとするの努力を多とするものなり

●仁川木曜會例會 仁川木曜會は今六日午後四時より民役所樓上に例會を催ふし韓國古代の建築物及び歷史等取調べの爲め來韓中の關野工學博士並に谷井工學士の講話を聽取したる筈

●高木博士の出發 曾禰統監の病氣見舞の爲め來京中なりし法學博士の同氏は今六日朝歸東せり停車場には佐竹秘書官中山書記官其他多數見送りたり

●羽田記者の出發 大阪每日京城支局長羽田氏は今朝南大門發列車にて上坂せり新聞記者其他官民の見送り多し

●俵學部次官招宴 俵學部次官は昨五日夜來京中の關野工學博士其他十數名を自邸に招待し晩餐會を催したりと

●隈本書記官東上 學部書記官隈本繁吉氏は書記官金漢奎氏を伴ひ一箇月の豫定を以て來る九日東上すべしと云ふ

●宍道中佐の出張 親衞府武官宍道步兵中佐は今六日朝太田に出張したり

●飯澤復二氏退京 臨時韓國派遣隊付一等軍醫正の氏は昨日太田へ出發す

●西野大尉の出發 步兵大尉西野三郎氏は昨日新義州へ向つて出發したり

●青山技師の下仁 來京中の岡山縣技師青山三次郎氏昨日仁川へ向へり

●西和田技師入京 農商工部技師西和田久榮氏五日入京京城ホテルへ投宿

●鈴木管區長來着 鐵原管區長憲兵中尉鈴木喜代三氏五日入京山本旅館へ

近事片々

▲伊公 國葬も濟み是から對韓政策に就て何等かの變態あらむと世人屬目す

▲兎に角 現狀の儘では濟むまじ安寧秩序を保つ點よりするも一の斷を要す

▲桂侯 伊公の政策を繼紹すると云へど伊公の素志必ずしも現狀維持に非ず

▲伊公 の政策を繼紹すると云ふもうは東洋平和の爲に盡すの意味なるや明

▲韓國 に對して現狀を維持するが果して東洋平和の爲なるや否やは疑問也

▲今日 の如く暴徒出沒し兇徒刺客跋扈せば自然平和を紊すに至るは當然也

▲平和 ならんとせば對韓政策に變更を來たすの當然なるを思ふ果して如何

▲桂侯 の對韓政策が現狀維持と推するは少々早計されど何やら頼りなし矣

▲此際 强硬の政策を取る杯は大人氣なしとの議論あるもそは所謂俗論のみ

▲現在 の儘に捨置くは決して帝國の威信を保つ所以に非ず政府を督勵せよ

▲刻下 の政策としては帝國の威信を保つと共に經濟界の發展とにあるべし

▲經濟 界の不振には邦人も韓人も全く困憊せり之が匡救は最も急を要す也

▲韓人 の窮迫狀態は漸次甚しく之を此儘に見捨て置く可きに非ず當局如何

▲社會 問題として韓人の窮迫は大に研究を要す當局官憲何等かの策あるか

▲饑餓 の下飢餓を叫ぶもの多々あるに至りては決して看過すべきにあらず

▲優勝 劣敗止むを得ずとして放任するは非也極端の自由競爭は弊害多き也

▲此問 題に就ては歐羅巴諸國の政治家皆な頭を惱まし居る是れ眞に大問題

▲韓國 に於ては今眼前に此問題橫はる爲政者たるもの冷眼に看過す可らず

▲韓人 等の多くは我對韓政策の强軟よりも一番に感ずるもの生活の問題也

▲麵麭 を得るを得ば渠等は謳歌せむ我當局者は宜しく玆に思を寄らるべし

熊谷民長の話談

熊谷民長が退職を申出られたるに付

京城居留民團公文

京城居留民團告示第十六號
民長熊谷頼太郎ハ辭表提出之處本月五日居留民會ノ承認ヲ經テ退職シタリ
明治四十二年十一月六日
京城居留民團民長代理
助役 林田茂七郎

福井茂兵衛優（九）

▲當地壽座に出演する

獄中では芝居の便りを聞くを樂みに日々苦役に從事し出獄の來るを指折り數へて待つて居たのです、僕は早なかつたけれども一座の俳優誰一人として藝の是非は措置き舞臺上の格好さへ取れたものなく恰度劍舞に毅の生へたやうなもので芝居としての價値は零であつたけれ共、何しろ壯士芝居といふ名が呼び物となつて人氣沸くが如く花井卓藏から「身を殺して仁を爲す」との意味で骸骨を描いた引幕を贈るとか、河岸から積物をするとか、團十郎や菊五郎が大勢の弟子を引連れて見物に來るといつた樣に意外の大成功を遂げたそうです、開演中面白かつたのは確か初日の晩でした何の幕か記臆ませんが揚幕から大勢巡査の扮裝で出た處が見物は無論表方までもそれを眞物と誤解しスワ一大事と大騷ぎの滑稽をやつたとか聞きました、彼此する内に出獄したので依然僕が大夫元となつて第二回も引續き同座で狂言は矢野文雄の「經國美談」依田學海の「後日の楠」を上場し第三回は「江藤新平」久保田彥作の「嵯峨の暴動記」を上場したが同一回と度を重ねるに從つて舞臺上の經驗も積み各自に工夫するので自然と芝居らしく見へ日を逐ふて入場者を□した、併し乍ら團菊の名優を見馴れた東京の人が珍らしがればこそ觀に來るので迚も向ふを張つて怎うのと騷ぐ資格は全然ありやしない、だから圖に乘つて長居は失敗の原因と飽かれぬ間に切り上げて地方巡業と出掛け桐生、足利、宇都宮、仙臺、福島を興行してろの年の十二月十五日横濱へ乘込み「嵯峨暴動記」を演つた、横濱は僕に取つて最も深い緣故のある馴染の土地柄の事とて壯士等の義理見物多くれ蔭で首尾よく打揚げ二十五年一月六日鳥越の中村座に歸り福地櫻痴の書卸した「平野次郎」七幕を上場した、次で三月八日猿若町二丁目の市村座に移り「鎖國攘夷後日譚」を一番目に据ゑ、中幕に久保田米僊作「歸後三郎」切は「墨水の川上に富士を眞向の筑波山花宴圖一座」といふ長ったるい藝題を置て開場した、二の替り

雜貨商店の破産

▲雜貨の商いは是が爲め

頃日來京城及龍山に於て小雜貨商、酒味噌、醬油商の破產事件頻々たりより此の間何等かの事情の潛めるものあるべしと種々探索の手を擴げたるに驚く可き事實を發見したり今左に其の槪要を摘記せんに小商人等は

▲御商人の競爭 を利用して僅少の資金を分割提供し……例へば資金百五十圓ならば之れを三分して五十圓を保證金として三軒の卸商人に提供して……取り寄せらるゝ丈け貨物を取り寄せ之れを他雜貨商よりは安價にして顧客に賣り込み他店の得意先を荒し賣込みに全力を盡すと共に寧ろ殘酷の程度に督促を嚴にして回收したる代金は一切隱匿して荷主への支拂は一日延ばしに延ばし置き愈々となれば貨物殘財を債權者たる卸商人に投出し開業以來

▲種々奮勵努力 したるも目下の不景氣に逐はれ華客よりの回收思はしからず此の上營業を持續せば猶更に諸君に迷惑を掛けざる可らざれば不本意ながら閉店致すこと幾分其の罪を輕くする途なるべし夫れに就ては貨物家財等此の儘御引渡し申すべければ何卒此れにて御勘辨下されたしと

▲腹中密吐紅舌 ながら殊勝らしく泣き付きて其同情を買ひ保證金丈け損をして貰ひ上げ金は着服して表面の破產同樣なるに似ず秘密は種々ものなるもの殆んど其の悉くなりと云ふに至りては驚かざるを得ず、然るに更らに驚くべきは卸商人の策畧なり、以上記述する所に依れば當然非常の損失を蒙りたるべき卸商人が却つて此の種の破產を歡迎することなり、元來卸商人さて何所の馬の骨やら分明ならざる小雜貨商に僅かの保證金を引當とし比較的多額の貨物を仕送ることなれば三割五割の懸値をして更に其正味を減ずることなりされば損をするのは顧客たる吾々のみなり、然れば破產の宣言を得てより賣掛金の三割も得れば卸商人は滿足するなり

▲龍山赤瓢破產 龍山元町二丁目の赤瓢事秋吉藤四郎は同地に於て本月三日破產を宣言したりとの事なるが其破產が果して不正なるものとは信ぜざるも同人は既に仁川にて料理店及雜貨商を營み居たる由にて其の際も殆んど相似たる閉店を爲したる者なりと云へば其の眞相を知るに難からずと云ふ

●明治町の寄席 野村吉三郎氏吉及田氏の共同經營の下に[illegible]成を急ぎつゝありし明治町三丁目の寄席は目下既に八分通り[illegible]は只だ小造作の一二を餘すのみなるが今其の管理の任に當[illegible]て聞き得たる所を記[illegible]席亭建築を志したる[illegible]の觀覽料多く高きに[illegible]び其の家族に娛樂を[illegible]のあるに出でたるも[illegible]足料とも合せて十五[illegible]にて棧敷も格別の[illegible]は徵せず一人五錢[illegible]鉢蒲團代とも一人[illegible]の樂を盡すを得[illegible]を股に掛けての渡[illegible]一箇月更代位にて[illegible]り時に或は浮れ節[illegible]等第一流の藝人を[illegible]るが初興行が何[illegible]渡坂したる上なら[illegible]興行で飯を食うの[illegible]等の物を安く御覽[illegible]なりき話を聞いた[illegible]がすることゝほく[illegible]

▲京義線列車内の出火 ▲食堂車[illegible] 一昨夜新義州發南[illegible]村驛を通過したる[illegible]の連結車より炎々[illegible]るを乘客の一人が[illegible]押開き注視すれば[illegible]より時節柄暴徒の[illegible]き大聲舉げて乘務[illegible]停止して出火車[illegible]めたるが原因は食[illegible]て石炭の過燃より[illegible]りたる爲にして[illegible]なるが一時は非常[illegible]

●三子の木目[illegible] 廓朝日樓の抱娼妓[illegible]者でありし丈け[illegible]加之に酒は何寄[illegible]々女郎の評判喧[illegible]社の運輸係長さ[illegible]洗つて貰ひ猫と[illegible]となつたりけるが[illegible]が要らぬ心配[illegible]いヨッコンハ斯くの如し

●他人の妻を蹴る 仁川新昌洞熊本生れ國田正吉[illegible]後四時頃熟醉の餘[illegible]なるものに求めし一切他人の吩咐を守[illegible]取合はざりしにぞ[illegible]何を生意氣な事を[illegible]早く足にて腰部を[illegible]官出張正吉は愁々[illegible]

●警察の手で歸國 北海道生れ[illegible]師國[illegible]と云ふは本年九月十[illegible]の希望に憧がれて渡[illegible]職業に有り付かず空[illegible]なる差ありて甘い儲[illegible]ず其日を暮すにさへ[illegible]り掲てゝ加へて脚氣[illegible]へ不自由となりしか[illegible]官訴出で保護を受けりとぞ

●仁川藝妓腕比べ 仁川花柳界花が我劣らじと腕に競へる先月中の席順如し[illegible]小富士、福[illegible]、君枝、笑[illegible]勇、富美子[illegible]、咲太郎[illegible]小梅、米蝶[illegible]、桝菊[illegible]たぼ[illegible]、加代、一駒[illegible]、富久之[illegible]千代田、千[illegible]、若奴、三吉

●穆山勞働者受給 穆山金鑛に於て勞働に從事したる日韓人に對し鑛主より給料支拂を遲滯したる爲め先頃紛擾を起したる事ありしが其後米國領事館側の手を經て右問題の解決を爲し數日前各勞働者に向つて全部支拂を□金七千圓を支拂ひたりと云ふ

●傳馬船を拾得す 仁川萬石町木村[illegible]と云ふは昨日萬石町海岸に於て傳馬船一隻を拾得したるが同船の所有者は今に判明せずと

●活動寫眞の好評 仁川歌舞伎座にて一昨夜より蓋を明けたる名優演劇活動寫眞會は韓國にては未曾有の觀物にて初日以來ヤンヤンの好評にて既に此處の風呂屋に於ける□しきものなるが一昨夜の幕より鳴物及び假色入りにて觀客は何れも舌を捲はなくれ蔭で久しかり振るを得しと悅べる向き出し明晩は寫眞を入れ替へて晩は例の琵琶歌の好評を博し更らに一層の好評を博

仁川敷島遊廓

●敷島遊廓の撿黴 仁川遊廓の娼妓八十二名に對し昨日定期檢梅を行ひたるに第二朝日の笑鶴及び小鶴入院し洗滌を要するものは敷島支店の菊江外四名ありしと

●先月中の敷島遊廓 仁川敷島遊廓に於ける先月中の嫖客數は一千二百八人にして此費消高四千五百八十九圓七十二錢五厘なりしと

●鷄を盜まる 大和町大韓病院長官舍内に飼養せる鷄一羽昨夜何者とも知れず竊かに掻淺ひたりとは物語めきたる竊みなり

●中券の新妓 香川縣平民小田みさを(三)は藝名伊達子と呼び大坂市平民高松かね(二八)はい京と名乘り今晩より中券に顯はれ粹樣のお召に應ずとなん

●色町だより 昨夜新町遊廓の色餓鬼は七十人散財高五百廿七圓六十五錢

●岸川菓子店移轉 永樂町赤門横に和洋菓子祝餠、饅頭等の調達を營業せし岸川菓子店は業務の擴張に伴ひ店舖の手狹を感じたるより本町五丁目梶原陶器店跡に移轉し九日より開業する由なるが當日より向ふ三日間添物として同店特意の製菓を一般華客に進呈すと

●寺院の伊公追弔會 京城各宗寺院は來る七日午後二時より南山本願寺別院に於て伊藤公追弔會執行する由にて一般の參拜は隨意なりと

●明日の各教會 旭町メソヂスト教會にては午前十時半より禮拜說教午後七時傳道說教あり旭町四丁目京城日本基督教會は午前八時半より日曜學校午後八時より傳道說教あり日の出町京城基督教會にては午前九時日曜學校同十時禮拜說教午後七時半傳道說教ある筈

▲壽座 福井、伊東合同劇明七日及び明後八日の替りは第一、悲劇「波の寄邊」七場中幕、元祿快擧外錄「土屋主税」三場第二、喜劇嚴谷小波氏作「やかず婿」二場にて役割左の如し

安田信之、大高源吾(小泉)唯一妹稚子、聰三妻賤子 吉野 安田娘後に筑波妻小夜子、勝田新左右門、妹れ園女學生(藤島)安田息貞一(香月)大學生、晉其角邸侍女、女學生、小伊藤事業家横山(吉井)大學生 笹原 車夫(小林)車夫(藤井)春日政雄、細川家々臣落合新吾、醫學士高村應三(小泉)大學生 田中)女中れ竹、三好女中れ元、執次(田中)安田夫人りん子、侍女(津村)唯一一子滿夫(高井)女中れ春、女學生(粟野)横山壽生加藤、細川家々臣阪本吾郎、叔父工藤朴助(芳川)唯 郎れ霜、仲間鹿造 北秋)宗匠晉其角齋、書生佐久間(伊東)筑波唯一、土屋主税(福井)

吉凶鏡 本町五丁目 三一館判斷

十一月七日 舊九月廿五日八白先負辛未 れさん△一白 相剋にして衰運に傾くの日なり創始改易は凶旅行金談効なし△二黑 家庭近親間に紛爭起り易し△三碧 音信に不快又は小憂を聞くあらん負傷防ぐべし△四綠 陰鬱なる日なり萬事不得要領に終り易し農業殖林には吉△五黃 平靜の日なり只業務又は官職上に失念疎漏あるなかれ△六白 增益の日とす收入又は快事あり旅行開業帰店等吉△七赤 契約相談等克く整ふ概して盛運なり△八白 創始及改易の事凶女色酒害盜難遺失防ぐべし△九紫 隆升榮進の日なり旅行賣買貸借等克く整ふ

十一月八日 舊九月廿六日九紫佛滅壬申 れさん△一白 障害失錯多し愼重に事を辨ずべし旅行金談相談等凶△二黑 進運の日なり殊に仕官就職相談等之を遂ぐ△三碧 順調の日なり但し家庭内に小波瀾交際上より損害を受くるあらん△四綠 概して平靜の日なり一生面を開くに世話事あり△五黃 事見合の事但し改なり改革更易の事良好但し虛張潤色に流るゝ勿れ△六白 新事業改修治金の事は良し△七赤 轉例に了り易き日新事改易の事及復雜ノ案件は斯日を避くべし盜害橫領ノ災防ぐべし△八白 盛運なり依賴相談等効有り建築及金融の業務には大々吉△九紫 窮厄非運の日万づ戒愼して守るべし鑛山冶金旅行出帆等大々凶

各種
洗濯石鹸
専門製造販賣
用途 陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道、湯屋、散髪、諸工業用
京城旭町二丁目（電話九七三番）
朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●募集 敏腕なる外交員至急入用希望者は直接京城本六消稿新聞社來談あれ

●少年入用 十七八才少年入用 大和町一丁目 齋春堂醫院

●職業あり十圓の資本にて一日一圓以上の職業有希望の方は御來談あれ 黄金町三番戸 函松商會

小僧入用 大和町一丁目 藤井出張店

ケ一生替に告ぐ匿名にては取扱不申候

●小僧入用 京城大漢門前遠藤洋服店

●被雇度 年三十二身体強健如何なる勞苦をも不厭相當の勤め口を求む 氏名在社（四六七）

●賣子入用 多少商業に經驗ある女子に限る希望者は本人來談あれ 京城大和町一 日の出橋際藤井出張店

●植字に雇はれたし給料不望 氏名在社（四六八）

●小僧入用 年齢十五六歳にして身元引受人ある者二名至急入用 明治町 日韓印刷會社

●至急求職 確實なる保證人を有する身體強健なる壯年男兒如何なる勤勞にても厭はず至急職を求めたし氏名在社

●事務員 相當の教育ある青年至急職を求む 氏名在社（四七三）

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建二間温突外八疊外三間井戸附右今月より貸したし家賃面談 氏名在社（五六四）

●電話 未設（不日かゝる分）讓渡したし 氏名在社（四六二）

●貸家 官吏向二、三、六、八疊瓦葺平家一棟揚殿物置附應門構有家賃三十圓 氏名在社（四六一）

●醫院讓渡 京城市内有望の地希望の方は至急申込あれ 氏名在社（四六三）

●京城旭町一二階四疊半二間附貸したし相成官吏を望む 氏名在社（四六四）

●電話讓受たし 京城黄金町廿番戸龜頭商工部御通り 京城勞働組（四六五）

●本町表通一等地商店向間口二間半家賃廿圓の處造作費四十圓ヶ讓渡したし希望者は輪路赤帽子號高橋方へ御談

●貸家本町通り目拔の場所にて貸家あり希望者は來談あれ 氏名在社（四七〇）

廣告

支那小犬一疋
毛色赤身長一尺 牝
右行衛不明と相成候に付發見被下候御方には相當の御禮可仕候
京城貞洞
ソンタクホテル
マンニング

診察時間 自午前一時 至午後七時
毎月 一日 十五日 休業
本町二丁目
中村耳鼻咽喉眼科醫院
院主 從七位 醫學得業士 中村健吉

龍山元町三丁目
長尾醫院
院長 醫學得業士 長尾乙二

龍山若松町
島崎鐵工場
電話四四一番

廿五日迄開業祝として一割引
かいきまわた
進物用眞綿、眞綿製防寒具類
京城代理店 京城本町一丁目（長谷川町へ通る）
栗永商店

木炭 堅薪 松炭 松薪
卸販賣
陸軍諸官衙御用達
薪炭問屋
南商會
同 南川出張所
同 龍山出張所
諸官衙納入多數御入用の節は拙者所有の山林に於て製造仕候間特に勉強致候條多少に不拘御用命被下度願上候
京城南大門外御成町（電話五八七）

新形流行
御羽織紐 金銀 帯〆
弊店の製造品は説明を要せず自ら能く之を語る
御注文の節は郵送無料にて御送致申候
東京淺草公園馬道一の廿八
三角堂栗原組糸店

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す弊場夙に此に留意し

ちゝ
京城本町
販賣元
搾取場

●…用ゐ得らるべし

齒科治療
本町六丁目
ドクトル 中村安子
（菊そば横町）

諸官衙御用品調達
各學校御用品調達
營業科目
和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸染料類
委託販賣
東京 ランバーゲ商會代理店
東京 中外アスファルト株式會社代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
東京 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約店
釜山 臺鹽合資會社食鹽特約店
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所 東京京橋區新地鍋町一丁目 電話新橋三六九二

美術書畫
襖、壁、天井張
京城壽町一丁目
佳萬吉

眼科專門
京城本町一丁目憲兵分遣所前
江頭眼科醫院（電話三三）
前漢城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄

待春日
合このしく

根炭
堅炭 堅薪
松薪 松炭 石炭
京城旭町四丁目（電話一九八番）
眞下大吉商店

根炭
薪炭 松炭
堅薪 松炭 石炭
京城漢江通五丁目
直見商店
電話龍山二〇四番

統監府御用
宮内府御用
軸物、表装、金銀屏風、額面、襖、壁張、天井張、雨戸、障子、硝子戸、其他表具、建具一式
表具 建具 商
京城明治町（電話一一八七番）
石川辰次郎

≡≡
焦心苦慮多年爲斯道難於微義奥旨恍然似有得者匪驚推聽斷吶吶茫洋辭愈涸
曖素面輕張也
京城本町五丁目
易斷觀相教授
館主 土御門派大陰陽師
三二館

精實を旨とし大勉強仕候也
宮内府御用
博物館御用
古今美術 書畫表装 金銀屏風襖洋式天井張
壽町二丁目
表具
松月堂

開業四週年
大賣出し
弊店儀御得意樣の御引立を蒙り日増しに繁榮に赴き候段難有仕合に奉存候依て本月は恰も開業四週年に相當するを機とし聊か御愛顧に酬ん爲め一日より一週間大賣出を期し破格の廉價を以て販賣致し候間續々御下命の榮を賜はらん事を奉希上候
ロース 廿二錢
並肉 十四錢
鷄肉 三十六錢
上等肉 十八錢
豚肉 十六錢
百目に付き
明治町一丁目
石田精肉店
電話千〇四十二番
本町二丁目たからや事
石田支店
電話三百二十九番

本舗 大阪 丹平商會
健腦丸
脳病全治新薬
醫學博士島村先生御證明
東京支店 丹平商會

各種廣告取扱
年賀廣告 杯 掛 器 引札 曆 其他
大取次
南大門通一丁目
興信社廣告部

京城ホテル
京城南山町三丁目（元日本人倶樂部）
長 電話一二三 四九二番

廣告

暖爐各種
煙突取付並ニ煙突掃除大勉強
京城本町五丁目角一番戸
電話四七一番
馬木勇吉
龍山山下町兵營前官舍入口
電話三六四番
馬木支店

東京 足袋
本店 東京
京城大和町二丁目（日の出橋際）
大和屋
藤井出張店
電話二百〇五番
正札付大安賣 厘毛引なし安心して買へ升

蒸溜 消毒
牛乳
京城大和町一丁目
平山牧場
電話 一三三

特約販賣 自製
漬物 味噌 醤油 製造元
京城本町五丁目
大上商店
（電話二五一番）
和洋酒、罐詰、精酌、穀物麺類、銘茶、乾物、物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進仕候

MORITA'S HŌTAN.
起死回生 寶丹
大學東校免許
守田治兵衛
代理店
京城南大門通三丁目（電話九千四百八十六番）
新井藥房本店
京城本町三丁目（電話四七八番）
新井藥房第一分店

瑞西タバン時計會社韓國代理販賣店
米國ウオルサム時計 米國アンソニヤ時計
韓國特約販賣店
獨逸國スカンジャ自轉車特約販賣店
時計卸商 仁川本町三丁目
喜多金光堂本店
電話七五〇番
時計卸小賣 京城本町二丁目
喜多金光堂支店
電話千十五番